



あまいろだより

手づくり市民メディア

Now ON SALE

何度も洗ってつかえるエコラップ  
ミツロウラップ  
販売中!!



プラスチックを使わないから化学物質を体内に取り込まず、食品もフレッシュなまま。しかも繰り返し何度も使えるから、気分はサイコ〜!

- Sサイズ 13×13cm 500円 (ex.生姜ひとかけ、半分に切ったリンゴなどに)
- Mサイズ 20×20cm 800円 (ex.お皿に残ったおかずなどに)
- Lサイズ 26×26cm 1000円 (ex.サンドイッチやおにぎりなどに)

オーガニックコットンの生地にミツロウ (たまばん@信楽のニホンミツバチのミツロウ、オーガニックミツロウ) とオーガニックココナツオイルと松ヤニをいい塩梅にブレンドして手づくりしています。(監修 Biwabochi ちまり)

▶ 購入ご希望の方は「あまいろだより」FB・インスタにメッセージいただくか、あまいろ探偵団にお声かけてね。



滋賀的! あまいろ勉強会を催します/  
オーガニックが食べたい! vol.1

講師 印鑰智哉さん

2019年10月5日(土) 13:30~16:00

場所 草津川跡地公園 (区間2) ai 彩ひろば (あいさいひろば) にぎわい活動棟「教養室」  
〒525-0061 滋賀県草津市北山田町 3268 番地 1 (草津駅より車で6分。無料駐車場あります)

参加費 500円

お申し込み amairo.media@gmail.com

(ご一緒に参加されるお子さんの人数もお知らせください)

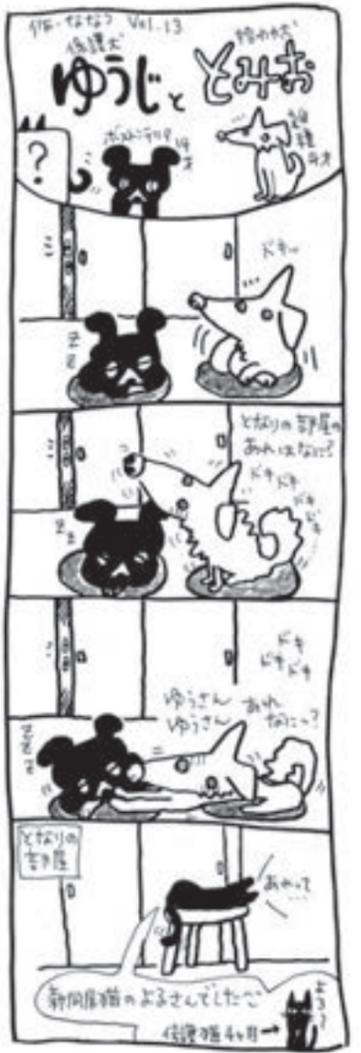
世界の有機農、食の安全、遺伝子組換え作物の体を与える影響、農業と病気、わからないことたくさん! 「世界の食と農」問題の第一人者である印鑰さんを迎えます。じっくり勉強しませんか?

滋賀的!オーガニックが食べたい! vol.2 も計画中です!

講師: 小山秋子さん (Biwabochi 主宰)

2019年11月25日(月) 10時~12時 於 能登川

ネオニコ系農薬、ミツバチ、プラスチック...環境問題についてお話していただきます。



# vol.39 | こころ動く学び

2019.9.15



あまいろだより(天色便り)第39号  
特集/こころ動く学び  
編集/あまいろ探偵団  
(北岡七夏・きむかかん・志野未来・中野和子・藤井朋子・森優子)  
表紙タイトルロゴ/岸田知之  
発行日/2019年9月15日  
発行/特定非営利活動法人あまいろ  
~大切なことを他人まかせにしない。自分たちで力をあわせてつくる~  
TEL 0748-46-4551 FAX -46-4550  
Eメール info@aoibiwako.org  
ブログ http://aoibiwako.shiga-saku.net/

びわ湖の森を元気にするkikitoペーパーを使用しています(びわ湖の森の同伐材活用)

## こころ動く学び

シュタイナー学校

二十年間続けてきた公立校の先生をやめて

京田辺のシュタイナー学校に飛び込んだ

宮崎僚子さん

教科書なし

指導要領もなし

百分間の授業に

素話。

目に見えないものを大事にして

ファンタジーの中でいきいきと過ごす

子どもの時間。

「驚きと気づきの連続だった」と。

シュタイナー学校二年目の僚子さんに

お話を聞いてきました。



宮崎僚子さん

### お話を伺ったのは?

みやざき りょうこ

宮崎 僚子さん

2児の母。野洲在住。

寝ること、食べること、喋ること大好き。今は AAA のにっしーにはまっています。

好きな食べ物はスイカ。

僚子さんの

シュタイナー教育おすすめ本

『これからのシュタイナー幼児教育—いま、おとなにできること』  
入間カイ著

『霊学の観点からの子供の教育』  
ルドルフ・シュタイナー著

『ミニマル子育て—少ないは多いにまさる 子どもと親が育ち合う』  
風濤社

### シュタイナー学校って?

ルドルフ・シュタイナー (1861 ~ 1925) 氏の教育思想に基づいて作られた学校。知性のみではなく感情や意志に働きかける総合芸術としての教育をうたう。世界 60 数か国に 1000 校以上がある。今年是最初の学校が誕生して 100 周年を迎え、映画監督・河瀬直美さんの制作した記念映像も話題に。

2001年に開校した京田辺シュタイナー学校では、現在約270人の生徒が学ぶ。

初等・中等部 (1~8年生) と高等部 (9~12年生) をもち、この学校に子どもを通わせたいと引っ越してくる家族もあるそう。

あまいる探偵団(以下あ) 昨年の春からシュタイナー学校で働き始めて今年で二年目ですが、働き始めた当初はどんな印象を受けました？

### 良い違和感

宮崎僚子(以下り) シュタイナー学校では小学校一年生から八年間、一人の担任が同じクラスをずっと受け持ちます。なので、まず一年生の担任をすることになりました。その年、一年生は在校生から一週間遅れて入学することになったんですね。それで私が教室で準備をしていると、五年生の女の子二人が花瓶に野の花をつんで「先生、これ教室に飾ってあげて」って持ってきてくれたんです。「自分らでつんできてくれたん？」って聞いたら、「うん。一年生喜ぶと思って」って言うんですね。この子ら誰にも言われずに自分で考えてやったんやなあと思って。一年生が入学してくる日にも、私が「下駄箱から教室まで大丈夫かな？」と思って見に行くと、在校生たちが下駄箱のところにずらっと並んで先にお世話してくれてるわけ。「これ何っ!?」って思って。普通の小学校やったら、五年生の子が一年生のお世話役です、この子の担当はあなたねって決められてやるでしょ。でもこの子たちは誰にも言われずにやるんです。自分の意志で主体をもって、誰かのために自分の手を動かす、時間を使うことがナチュラルにできるし、とにかく欲がないんです。モノであったり時間や労力、自分の持っているものを惜しげもなく差し出してくれる。これは言葉で教わったわけじゃないと思って。来て一週間で良い違和感をたくさん感じました。



宮崎僚子さん

### 忘れても大丈夫

あ そんな子どもたちがどんな風に学んで育っているんでしょう？  
り シュタイナー教育の子どもは七周年期なんです。最初の〇、六才までは体を作る時期、次の七、十三才までは感情に働きかける時期、十四才からは頭に働きかける時期と言われていて、そこで初めて本格的な学問に入りますよ。

担任は毎日メインレクソンとなる百分間

の授業をするんですけど、最初何もわからない、教科書もない、学習指導要領もなければシラバスもないって中で、「どうすればいいですか？」って隣の先生に聞いたんです。そしたら、「一番の目的は子どもたちの心を動かすことです。」って言わはったんです。私それを聞いたときに「え？知識の定着じゃないの？」って思って。授業の目的は「定着」ってこれまで当たり前のように思ってたから驚いて。でも「子どもはいきいきとイメージできることでしか学ぶことができません。抽象的な記号とか文字での学びはないんです。だから子どもを動かすことが一番の仕事です。」って言われた。めっちゃ納得したけど、「じゃあどうすればいいの？」ってなるでしょ。今までの先生がやった授業の資料が置いてあるので、それを参考にしながら、でも最終的には「いま目の前にいる子どもが何を必要としているか、それを見て授業を組み立てていくんです。」って言われたんです。もう修行のような毎日でした。

大きな授業(メインレクソン)の教科はあるんです。例えば一年生の科目だと『ことば』『かず』『フォルメン(線描)』っていう三つがあって、四週間ごとに次の科目に移っていきます。毎日百分間『ことば』のメインレクソンを四週間したら、次の四週間は『かず』『フォルメン』。なので四週間かけてやったことを、次の四週間できれいに忘れるんですよ。でも忘れることをとても推奨しているんです。私、これまでは習ったことを忘れさせへんために何回も反復練習させて、三日と置かず同じ問題をやらして。それでも忘れるのに「忘れることがいってどういうことですか？」って他の先生に聞いたら、「二ツ三ツしながら「忘れるんじやなくて一度眠らせるんです。学んだことを眠らせて、また数ヶ月後に会い直すんです。その出会い直したときに、その子の中で『再構築』されて出てくるんです。」って言うんです。だから授業の最初は『リコール(思い出すこと)』から始めます。前の日に習ったことを「昨日どんな話やった？」って言うて。それを一、二カ月前のことでもやるんです。「今日からまた『ことば』の学びが始まるよ。前はどんなお話やったか覚えてる？」って聞くと、随分前のことなのに子どもは生き生きとリコールする。それは頭じゃなくて心が動いているからなんです。しかも『再構築』されて出てくるんです。「そんなお話違っかつたやん！私そんな話じゃべってへん！」みたいな(笑)。でも、それこそが学びなんだって言うんですよ。「リコール」っていいのは、内容が合ってるかどうかは重要ではない。インプットとアウトプットの間に、『インテイク(取り込む)』があって、『再構築』してその子の身になってアウトプットとして出てくるんですよ。これは私の教師生活の中ではもうガツンと頭を叩かれたみたいな驚きでした。今までは、インプット即アウトプットを求めてたんですよ。真ん中の取り込む時間っていうのは一足飛びになってた。教えたらすぐ点数にして返してほしいと思いがちだった。だけど、眠らせておけばいい、置いとけばいいというのは、最初は戸惑いましたが、今はそれがすごく心地いい。答えをすぐに出さない、急がない。お互いにとって実りのあるやり方だあって思うようになりました。

### たっぷり心を動かす

あ 「子どもの心を動かす」というのはどんなことをするの？

り 例えば素話を毎日します。お話を丸ごと覚えて語らなあんから大変。でも本を見ずに子ども目を見て語る。だからこそ届くことがあるって感じます。語っている、ハラハラする場面ではみんな息を詰めてるんですよ。私も語りながら息を詰めてもハッピーエンドだと「あよかった」って息を吐き出す。一緒に呼吸してるって一体感があるんです。私、自分の子どもにも、一才位からずっと寝る前に絵本を読んだんです。でもある日学校でした素話を長男にしたらね、終わって寝るときに「お母さんありがと」って言わはったんです。心から。今まではずっと絵本を読んできたけど、こんなに沁みるありがとって言われたことがないなと思って。心の動きが全然違うんですよ。絵本って他のいるんなことを考えながらでも読めてしまっつて。『今日の晩ごはん何しよう』とか、「はよ寝てくれ」と思いつながらね。でも素話は完全に自分がその世界に入り込んで、子どもと一緒に心を動かしながらできない。シュタイナーの子どもたちは八年間毎日素話を聞いて育つわけです。どれだけのものを得るんやろって思います。

あ 子どもが世界がすごく大切にされてますね。  
り 目に見えない物をね、シュタイナー教育ではすごく大事にしている。授業の中でも、妖精とか小人とか神さまという言葉がよく出てきます。ファンタジーで子どもを

包んであげているという感じ。子どもたちに伝えたいことがある時、一番効果的なのはお話で届けることなんです。二年生まではほんとに効果的。例えば、一年生の子らって話したいことを思いついた時に我先にとしゃべるでしょ。「先生！先生！」ってみんな同時に。最初は「人ずつ喋ってくれる？」って言葉で言ってたんです。でもまた来る。めっちゃかわいけど、すごく自分も疲れるしなんとかしたいなって思ったときに、「そらやお話や！」と思って。四人の小人が冒険するお話の中に、小人たちが大好きなおじいさんに「聞いて聞いて〜！」っていつべんにしゃべる場面を入れたんですよ。おじいさんは「二ツ三ツしながら「おほほ、みんなのお話を聞いてあげたいが、いっぺんに喋られたんじや聞けないから、人ずつ喋ってくれんかの」って言う。そうしたらその日、また「先生！」ってみんなが来た時に「一人の子が「みんなあかんで。おじいさんが言ってたやろ。一人ずつ順番に喋らな」って。ああお話で届けるってこういうことかって、すごく実感できた経験でした。即効性はないかもしれないけど、じわじわって子どもの中にイメージが広がって受け取る。心で受け取ったものは本当にずっと残る、そしていつか思い出さすことができるんですよ。今までは私がやって来たのは頭だけの学びでね。だから二、三が終ったなら、テストが終わったらきれいに忘れてしまっつて。シュタイナーではそうやって十三才までたっぷり心を耕された子が、十四才になって初めて知的なことに触れてぐんと伸びるんです。

### 美しいの中で

あ 先生と子どもたちがしっかりと目を合わせながら授業してる光景が目に見えたり、その美しさもよく言われます。

り 八歳までは大人の在り方が子どもの環境の全てなので。大人の表情や声色、所作の美しさもよく言われます。  
あ 所作っていつのは？  
り ひとつひとつ立ち居振る舞い。例えばプリントを配るときに、一番前の席の人にほんつて渡して後ろに回してつてよくするでしょ。けど、ここでは渡す子の目を見て一枚ずつ「はい。どうぞ」って渡すんです。特に低学年のうちは何でも。子どもたちは最後の子が受け取るまでずっと待つんです。  
あ それは待てない子もいるでしょう？喋っちゃう子とか。  
り いる。誰かが喋ると手を止めてじーっ

とその子の目を見て。そしたらお喋りをやめますよね。それを見てまた始める。それをなし崩しにしない。線描の授業で、私が黒板に一本線をこう描くでしょ。「はい、じゃあ光の黄色のクレヨンを持ちます」って言ってクレヨン持つでしょ。「描きます」って言って描く。「はい。お部屋にしまします」ってクレヨンをしまします。その所作をすごく大事にしながら、一個ずつやる。私の中では今まではなかったことです。効率優先で生きてきたから。でも、ここでは効率は全然大事なことじゃなくて。物は子どもと一緒に生きて。だから、紙一枚を両手で大事に渡したら、その子も自分が大事にされたと思っつて大切に受け取るんですよ。

### 意志への教育

あ そういう中で自ら考えて動く力が育つってどういうことかな？  
り シュタイナー教育は「意志への教育」って言われるんですけど、意志っていうのは行為する力なんです。人は心の中ではいいことをたくさん思いつきたいとか。でもいくらそれを心で思っつても、自分の手足を使っつてそれに向かって何か行為しなければ、何もしてないのと同じ。一歩動いて行為する、その力を育てるのがシュタイナー教育です。頭だけ動かしていても頭でっかちの人間になって行為する所までは行かない。小さい時に、まず子どもの心と身体が健康で、そして頭と手足と感情をバランスよく動かしていると、実際に行為できる人になるって考えられていて、高等部の子たちを見てると、とても納得できます。ある高等部の子がテラスの手すりにもたれて外を見てたんです。その後ろ姿がすごくスタイリッシュだったんです。容姿が特別いいとかじゃなくて、こんなに大地を踏みしめて立てるかみたいな、すごくさまになってたんですよ。そして彼らの、自分で決めたことはイヤでも何でも全うするっていう力、そこに自分が関与して決めたことだったから、自分がやりたくなくつてもやるといふ姿を見ると、この学校の教育は間違っつてないと思えます。  
あ また何年後かにお話聞かせてください。

### 暮らしのコラム

## ニュージーランド 気まま旅 vol.1



きた おりと  
喜多 織人

高校を辞めて、日本やヨーロッパなどを旅して過ごしている19歳。

皆さんこんにちは！初めましての方は初めまして。織人と申します。

僕は自転車で旅するのが好きで、今までは日本やちよいヨーロッパなど回ってきたのですが、1ヶ月ほど

前に1年間のニュージーランドの放浪の旅から帰国しまして、面白い経験をシェア出来たらなあと思っています。

自転車で旅をしていると日本でも猪やら鹿やらに遭遇した事はあるのですがニュージーランドではなんと、牛の群れに追いかけられました(笑)。

ニュージーランド、北島はテ・ウレウエラ保護区の100km 続く砂利道峠を越えて坂を下っている時一その峠は馬や牛が放し飼いになってますよ〜というゾーンだったので一路肩で牛が草を食んでまして、遠目に牛がいるなあとスーっと通り過ぎたんですが、とてつもない勢いで僕を追いかけました！

もうキモ冷えましたね(笑)。自転車含めて僕の2~3倍の巨体が5頭ほど、ドドドドと音を立てて来るんですよ。必死に自転車漕いで、でも結局追い越されたのですが、牛に道交法もなにもごぞいませぬ。道路の真ん中を堂々と駆けて曲がり角に消えていきました…

牛も僕を見てビックリしたのでしょうか。

ちなみに、ニュージーランドは人口より羊の方が多いくらいの酪農大国でそこらじゅうが牧場なのでお肉がとても安いですよ。住んでた頃は意識してなくて、日本帰ってきてからパックの軽さにビックリ！もっと買っときゃ良かったなあ…

(次号へつづく)